

科目名	国際コミュニケーション I	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			国際学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Global Communication I	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	きむら きよし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	木村 澄	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	人間とは一体何なのか。人間の未来をどのようなものにすべきか。そのためには何が必要なのか。			
到達目標	人間社会におけるさまざまな事象に対する考え方を理解しながら視野を広げ、自らの生き方についての根本的な考え方や行動のあり方について学んでいく。そして、バイオフィリア的方法論やウェルビーイング理論などを実践することによって、より良い生き方を可能とする状態を築くことを目標とします。			
授業概要	コミュニケーションの前提として、第一に、「人間の本性」について論じ、次に、犯罪がいかんして社会で生み出されるのかを考察し、最後に、何が人生を生きるに値するものにするのかを探究するとともに、それを可能にする状態を築き上げる方法を考察します。			
授業計画				
第1回	「人間の本性」①：ネクロフィリア、ナルシズム、近親相姦的共生			
第2回	「人間の本性」②：決定論、二者択一論			
第3回	「愛の理論」：対人的融合の欲望、愛を作り出す力、愛の実践			
第4回	「人はなぜ罪を犯すのか」①：分化的接触理論、アノミー理論、非行サブカルチャー理論、分化的機会理論			
第5回	「人はなぜ罪を犯すのか」②：中和・漂流理論、ラベリング理論、ボンド理論			
第6回	「ウェルビーイング理論」①：5つの要素（ポジティブ感情、エンゲージメント、意味・意義、達成、関係性）			
第7回	「ウェルビーイング理論」②：幸せに必要なこと、とっておきの強み			
第8回	「フロー理論」：よい人生とは何か、活動への深い没頭			
第9回	「ウェルビーイング理論」③：幸せの意味、強みとしての特性			
第10回	「世界の労働運動から」①：イギリスとアメリカ			
第11回	「世界の労働運動から」②：日本（戦前と戦後）			
第12回	「人事管理論の潮流」①：科学的管理法、人的資源管理論、日本の人事管理の流れ			
第13回	「人事管理論の潮流」②：ワーク・ライフ・バランス			
第14回	「エージェンシー」を求めて、「コンピテンシー」を求めて			
第15回	まとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 授業前に前の回で配付したプリントとノートに必ず目を通しておいてください。 2. 理解度を確認する小テストを2回実施します。復習をしっかりと行ってください。			
履修条件 受講のルール	特定の科目を修得済みであることを前提に授業を進めることはありません。			
テキスト	講義の際にレジюмеと資料を配付します。			
参考文献・資料	フロム著『悪について』・『愛するということ』、セリグマン著『ポジティブ心理学の挑戦』、チクセントミハイ著『フロー体験入門』、木谷宏著『人事管理論再考』、白井俊著『教育の未来』、その他			
成績評価の方法	【定期試験（60%）、小テスト（25%）、主体的学びの姿勢（15%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	<p>毎週火曜日 4 時間目（14：40～16：10）・木曜日 4 時間目（14：40～16：10）</p> <p>※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。</p>
成績評価基準	秀（90～100 点）、優（80～89 点）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（0～59 点）
学生への メッセージ	「わかる」・「できるようになる」に向けて「主体的な学び」の姿勢を大切にしましょう。